SAFE COMMUNITY TSURU CITY

高齢者の安全対策委員会

発表日　令和8年10月30日（金）

発表者　高齢者の安全対策委員会

委員長　高部　鈴枝

副委員長　舟越　あゆみ

設置の背景

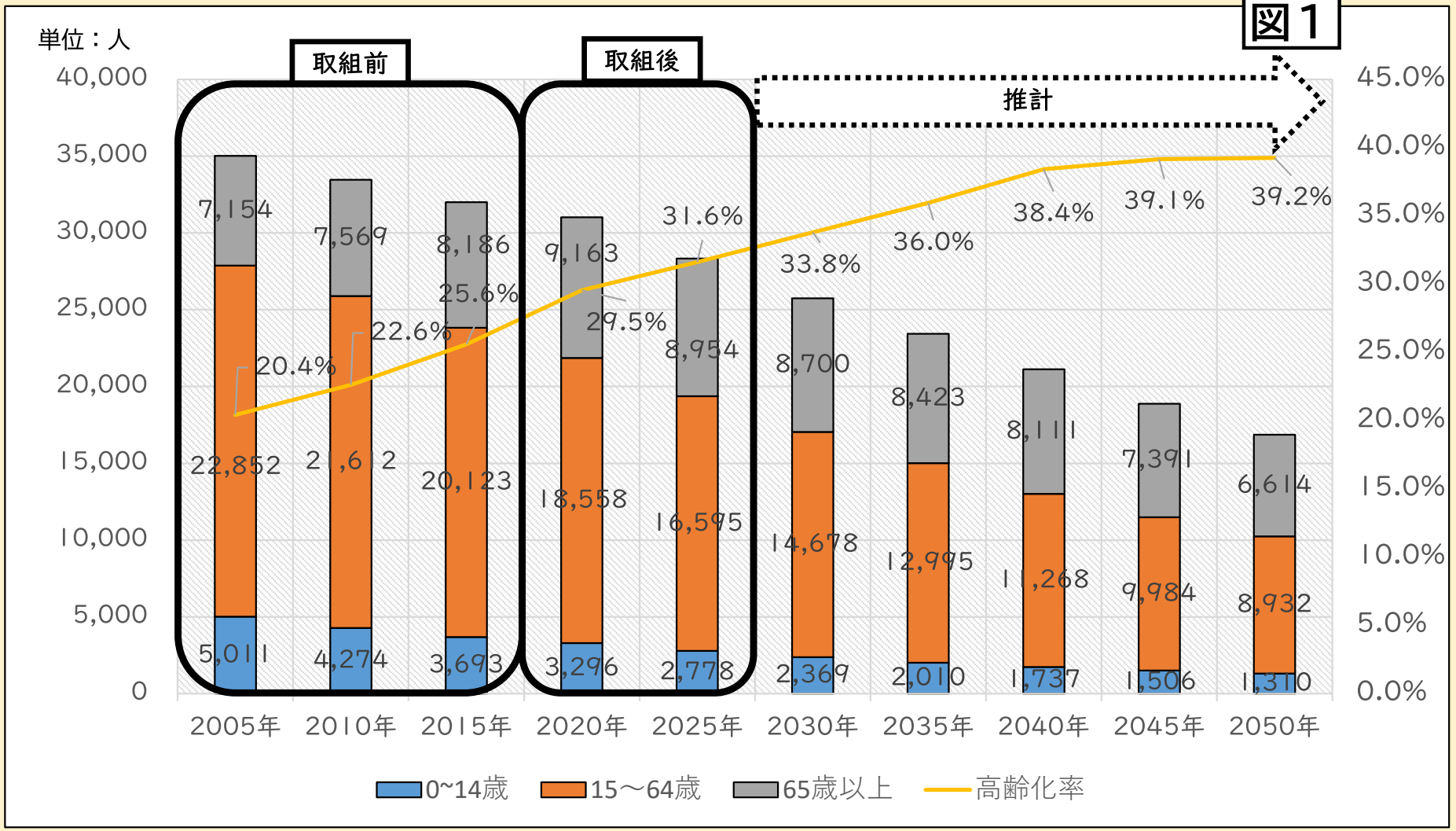
① 高齢化率や高齢者だけで暮らしている世帯（65歳以上）は年々増加傾向にある。

② 一般負傷※による救急搬送のうち、65歳以上が全体の約60%を占め、特に80～89歳の年齢層が多い傾向にある。

※一般負傷とは、交通事故、労働災害、火災などを除く、日常的な負傷を指す。

背景①-1　高齢者人口と高齢化率の推測

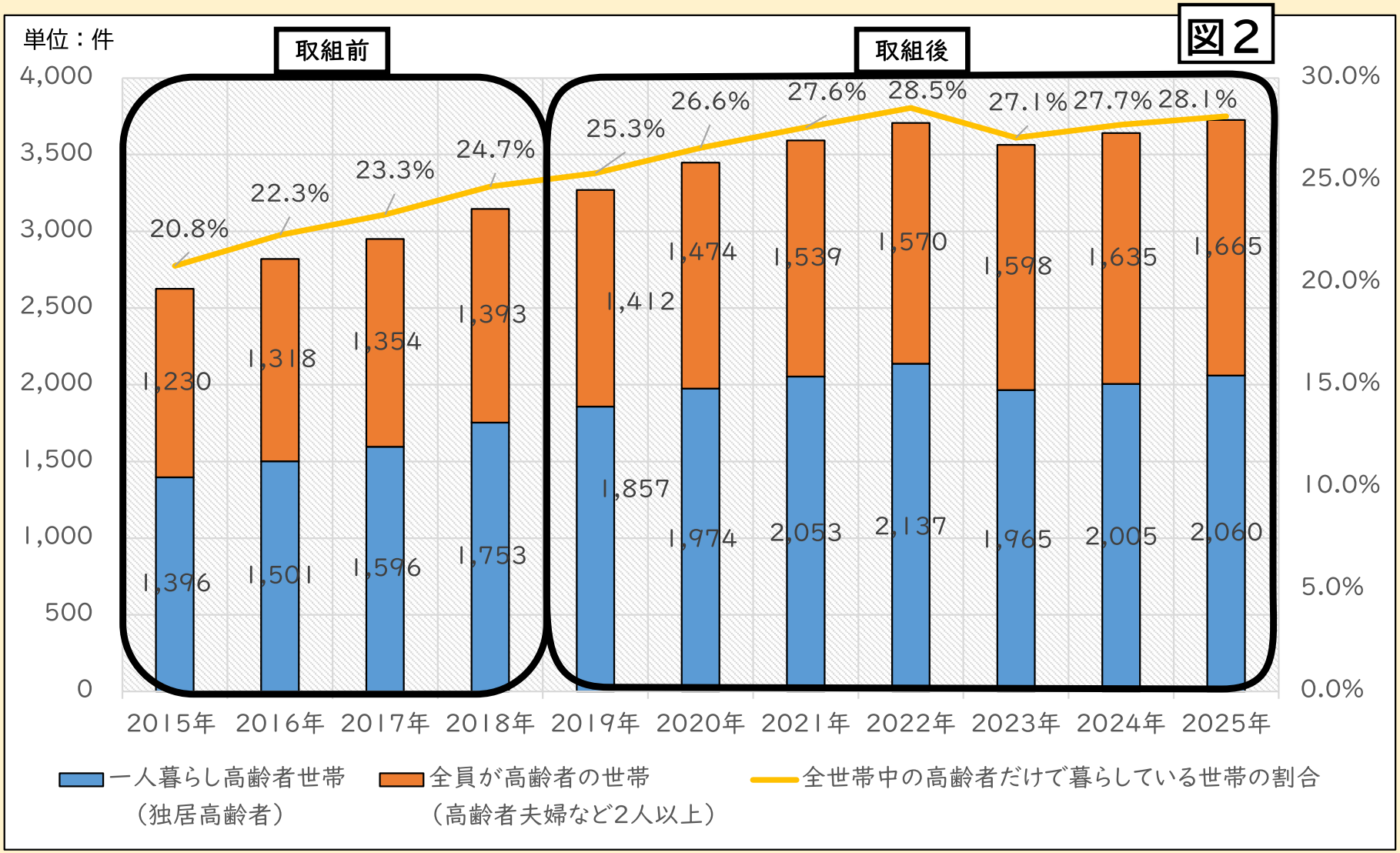
図1



出典：都留市人口ビジョン第3版

・今後、高齢者人口及び総人口は減少見込みとなっているが、
高齢化率は、年々上昇していく。

背景①-2 高齢者だけで暮らしている世帯の推移



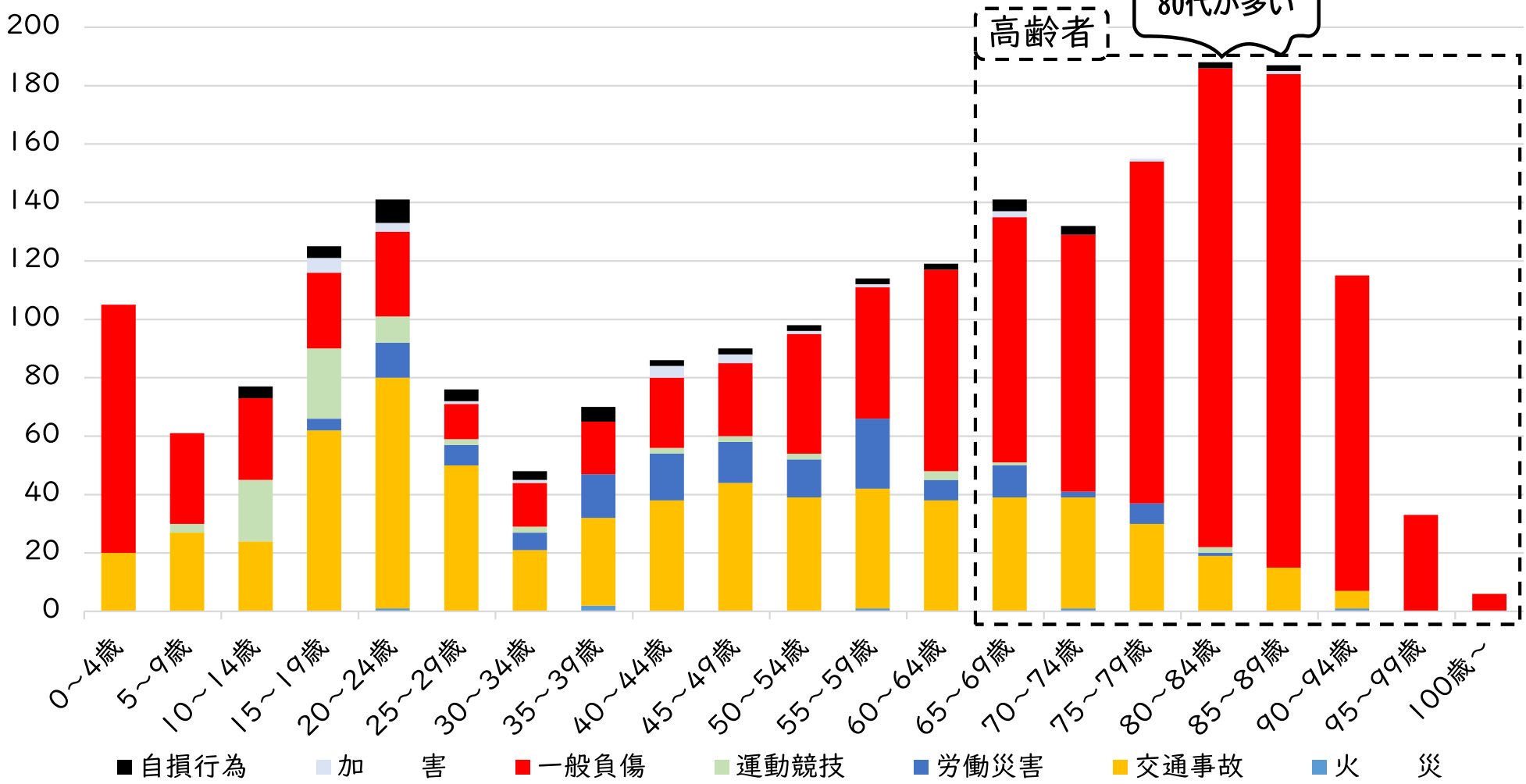
出典：山梨県高齢者基礎調査

・高齢者だけで暮らしている世帯（65歳以上）も年々増加している。

背景② 救急搬送の年齢層別件数

図3

○年齢別救急搬送の件数（2013~2018）【取組前】



出典：救急搬送データ

・救急搬送のうち高齢者（65歳以上）では、一般負傷よる件数が多く、特に80~89歳の年齢層で救急搬送が多く生じている。

データに基づく問題

①高齢者の救急搬送のうち、転倒や転落が多く、骨折など大きなケガに繋がるリスクが高い。（図4、図5）

②高齢者の救急搬送のうち、誤嚥や誤飲が多く、窒息など生命の危険に及ぶことが危惧される。（図4、図5）

③高齢化率や独居高齢者の増加に伴い、閉じこもりのリスクの増加が予測され、これによりフレイルなど心身機能の低下のリスクが高くなることが予測される。（図6）

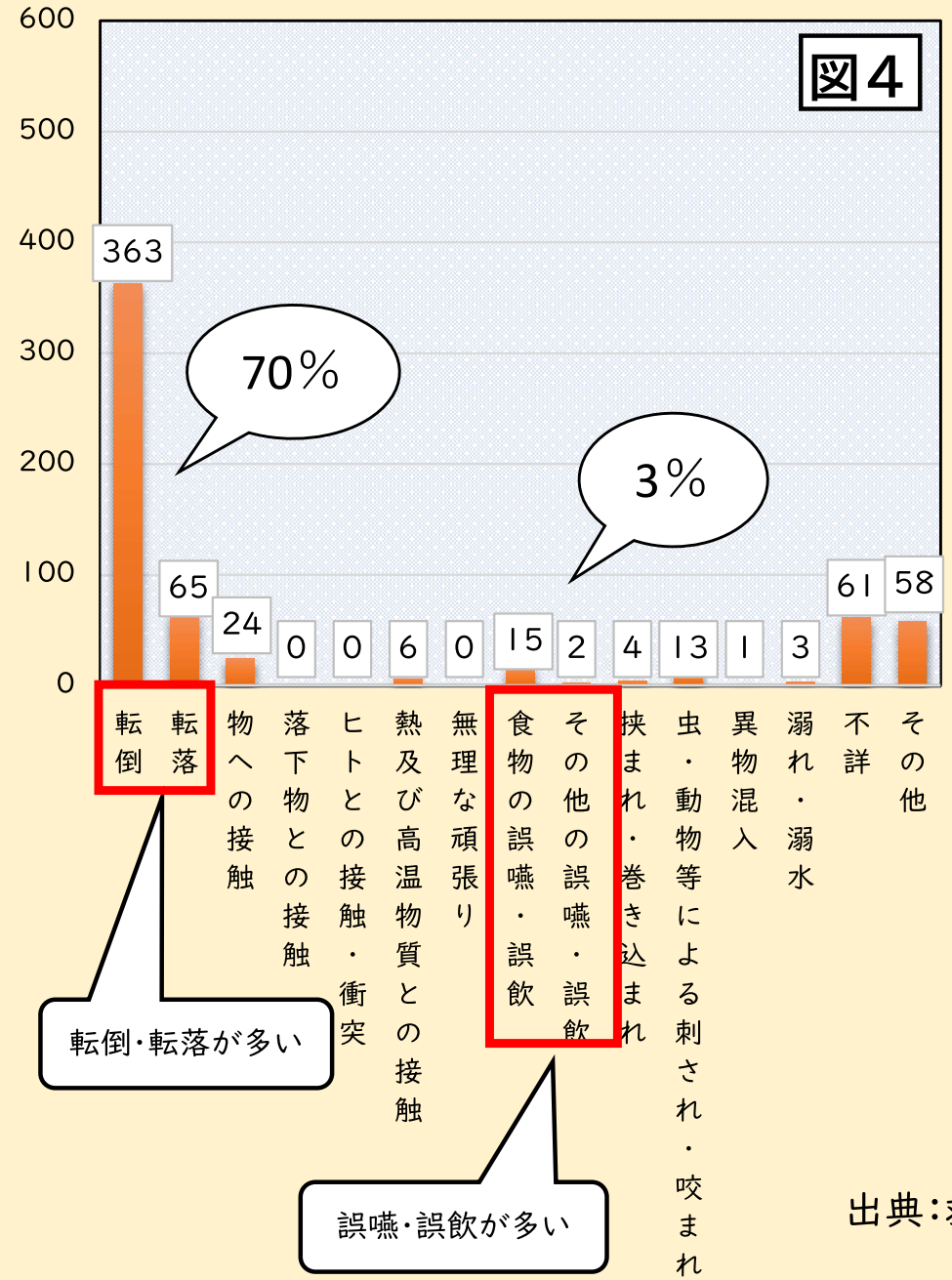


問題の背景（次ページ）

問題①,②高齢者の救急搬送が多い

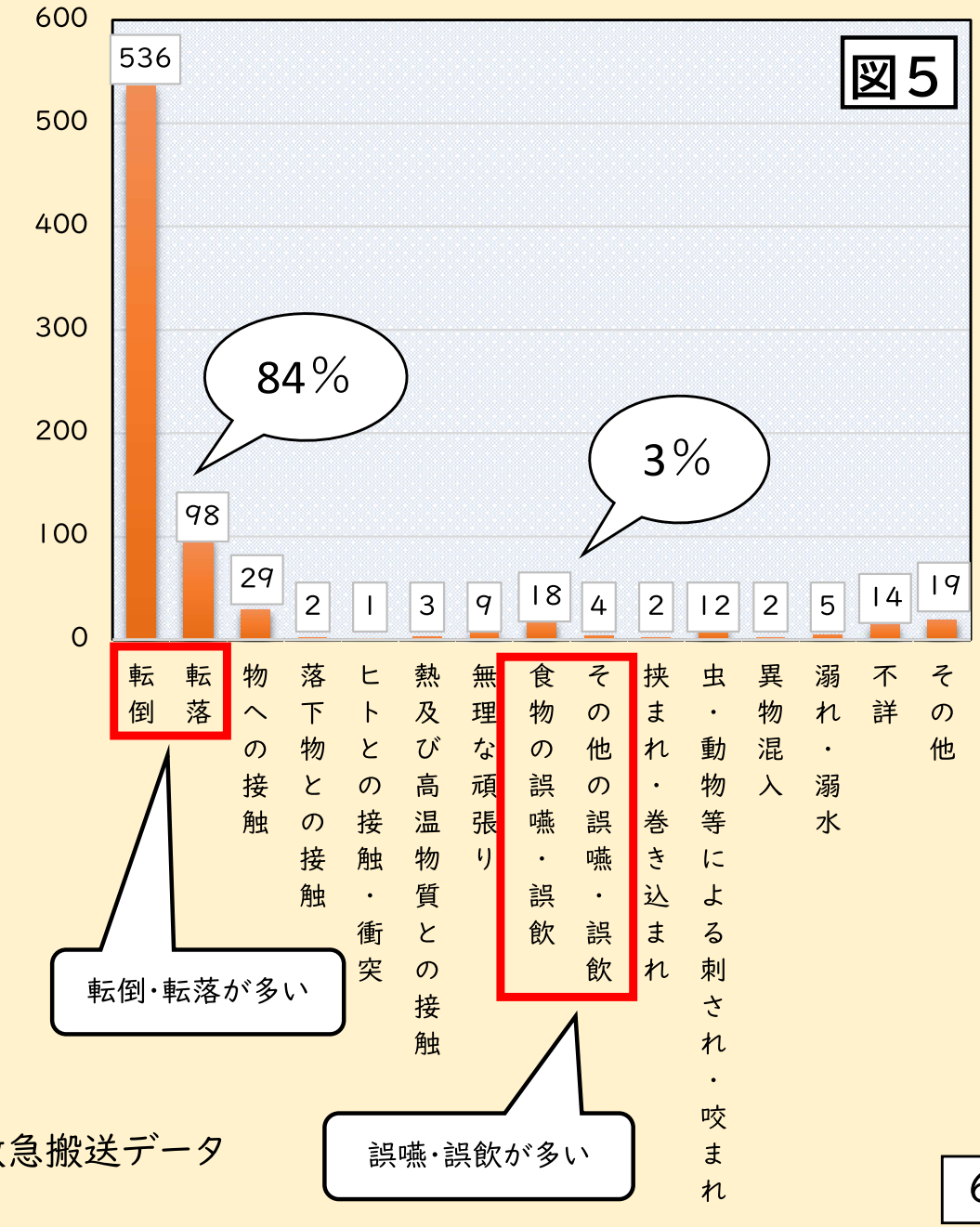
単位：件

高齢者の救急件数（2013~2017）



単位：件

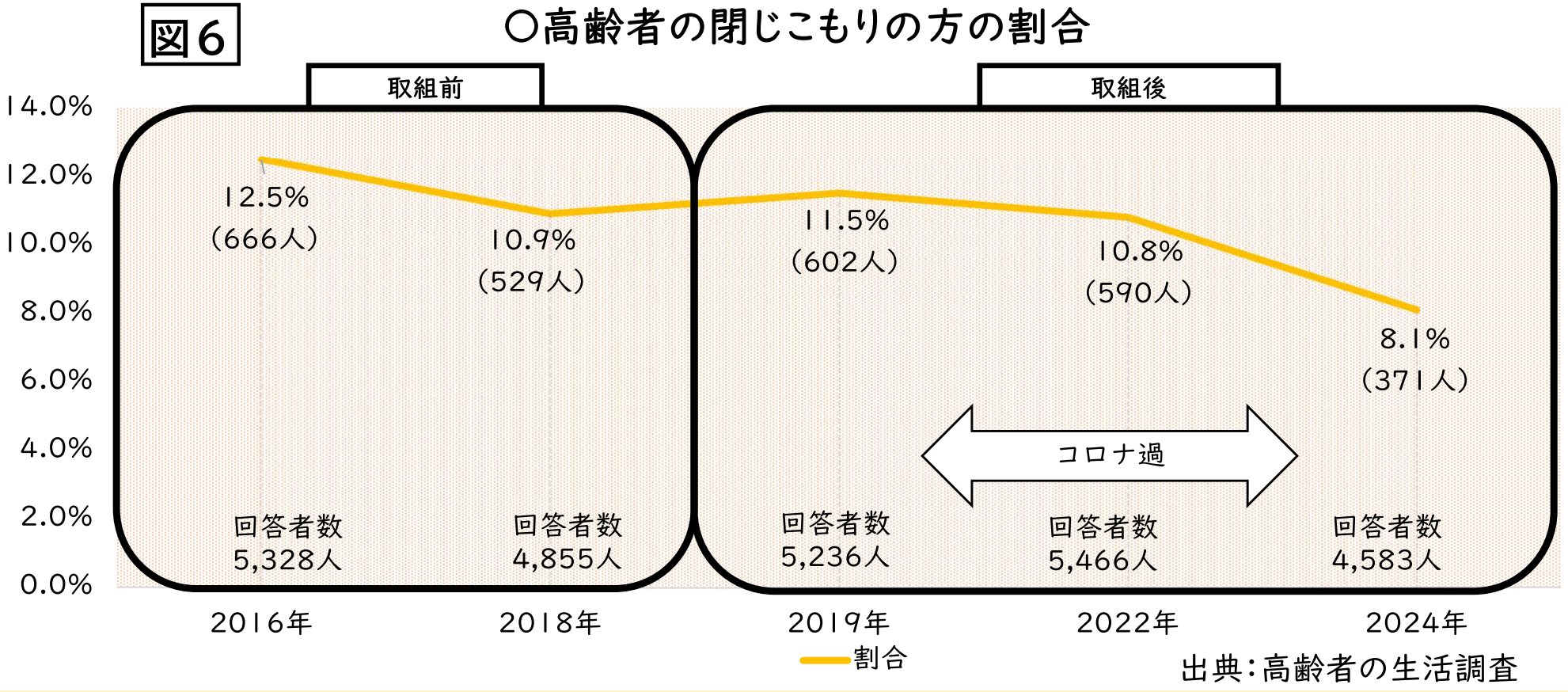
高齢者の救急件数（2019~2023）



出典：救急搬送データ

問題③-1高齢者の閉じこもりの増加

図6



出典：高齢者の生活調査

高齢者の閉じこもりの定義：外出の頻度が週に1回未満

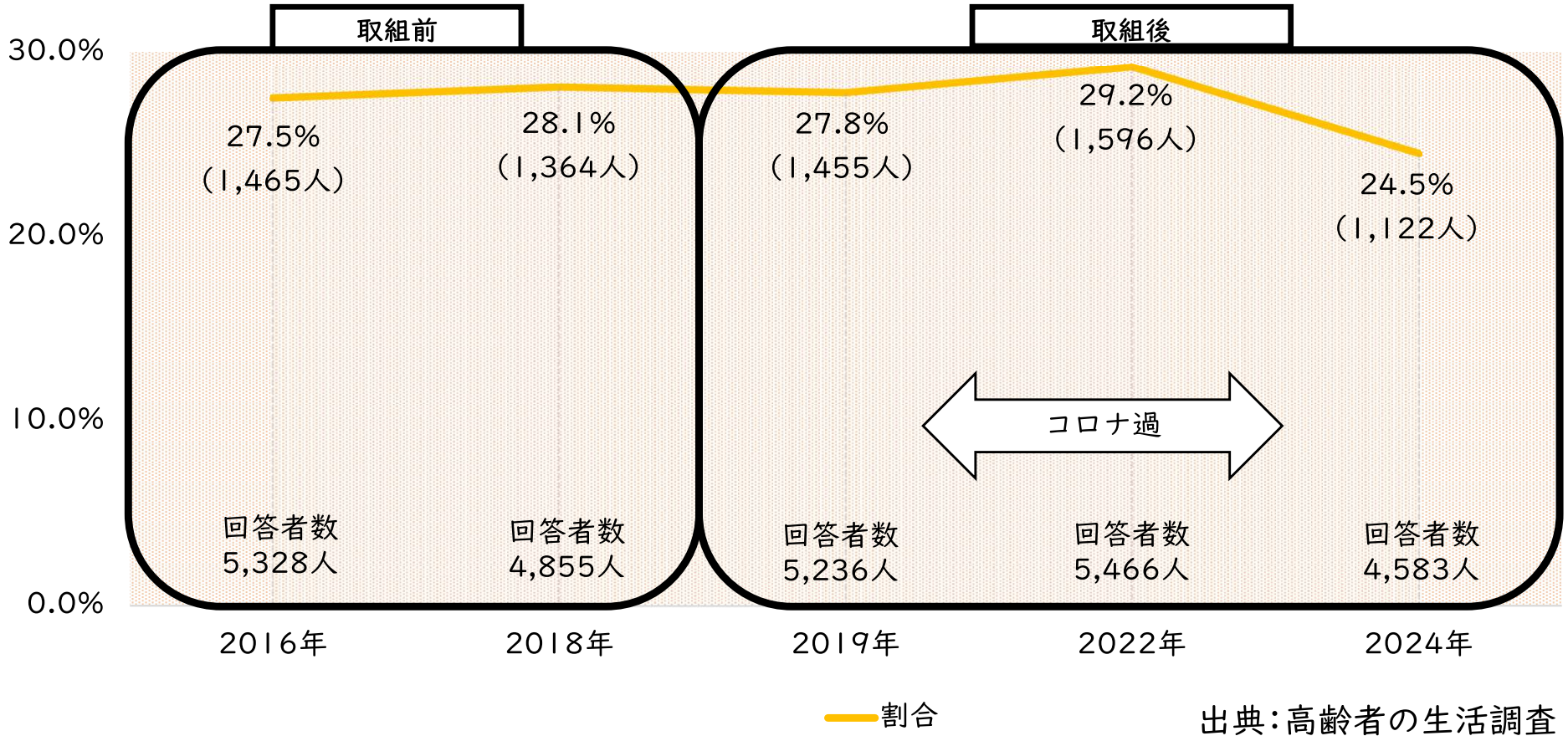
・高齢者の閉じこもりの傾向として、「いーばしょ」※などの高齢者の通いの場の充実により、減少傾向となっている。

※「いーばしょ」とは都留市独自の取組で地域が主体となって高齢者などが集いコミュニケーションや活動を楽しむ「場」

問題③-2高齢者のフレイルリスクが高い

図7

介護を必要としない65歳以上の高齢者に占める
フレイルリスクに該当する方の割合



出典：高齢者の生活調査

フレイルとは、加齢とともに心身の機能が低下して要介護状態に近づくこと

対策委員会の構成

区分	団体 ・ 組織名	
住民組織 民間団体等 （7人）	老人クラブ連合会	
	通所介護事業所	
	都留市社会福祉協議会	
	「いーばしょ」（高齢者の通いの場）	
	鶴寿大学（高齢者の学びの場）の代表者	
	有志（精神保健福祉士、元民生委員）	
行政機関 （12人）	都留市立病院	介護老人保健施設
	都留市（長寿介護課・生涯学習課・大学教務課・市民課）	

問題に対する課題・方向性

問題	根本的な課題	対策の方向性
①高齢者の 転倒や転落が多い （図4・図5）	・加齢や運動不足により、下肢筋力が低下している ・安全な住環境整備に関する認識、実践が不足している	認識向上と実践支援： 体操普及と住環境の改善により、自宅での転倒・転落を減らす
②高齢者の 誤嚥や誤飲が多い （図4・図5）	・口腔ケアの重要性が認識されておらず、実践者が少ない	口腔ケア意識の醸成： 歯科検診と口腔ケア方法の周知拡大
③高齢者の閉じこもり （図6）	・社会参加の「場所」の不足や「情報」の周知が不足している	通いの場の充実と周知： 「いーばしょ」ばど高齢者の集まる場の拡大と認知度向上

問題に対する取り組みの整理

問題	方向性	ハイリスク	取組み
問題1	①自宅での転倒・転落を減らす	高齢者（特に運動習慣がない者）	取組み①「今、生きてます体操」「楽ひざ体操」の普及 取組み②住環境の点検表（リーフレット）作成と周知
問題2	②健康な口腔づくりの周知	高齢者（特に口腔ケアの習慣がない者）	取組み③口腔ケアの普及
問題3	③高齢者の集まる場の充実	高齢者（特に社会参加していない者）	取組み④地域での集まりの場の周知とサポート

問題①に対するレベル別対策

問題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
高齢者の救急搬送のうち転倒や転落が多い	啓発支援	・一般介護予防 ・10月10日は「転倒予防の日」 ・根拠に基づいた対策に関する情報提供	・「いーばしょ」※の開設支援 ・理学療法士や運動指導士の派遣 ・はつらつ健康ポイント手帳 ・健康ジム無料券の配布 **プログラム①** **・「今、生きてます体操」、「楽ひざ体操」の普及**	・「いーばしょ」、サロン、老人クラブ等での活動 ・「今、生きてます体操」、「楽ひざ体操」の実践 ・はつらつ健康ポイント手帳を活用した自主的な活動
	規則・罰則	・介護保険法		
	環境整備	・介護保険制度（住宅環境の整備） ・バリアフリー新法	・高齢者福祉計画、第９期介護保険事業計画 ・車いすの貸出 **プログラム②** **・住環境の点検表（リーフレット）作成と周知**	

問題②に対するレベル別対策

問題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
高齢者の救急搬送のうち誤嚥や誤飲が多い	啓発支援	・一般介護予防 ・10月10日は「転倒予防の日」 ・根拠に基づいた対策に関する情報提供	・「いーばしょ」の開設支援 ・理学療法士や運動指導士の派遣 ・はつらつ健康ポイント手帳 ・歯科検診の案内 プログラム③ ・口腔ケアの普及	・「いーばしょ」、サロン、老人クラブ等での活動 ・「健口体操」の実践 ・はつらつ健康ポイント手帳を活用した自主的な活動
	規則・罰則	・介護保険法		
	環境整備		・高齢者福祉計画、第9期介護保険事業計画	

問題③に対するレベル別対策

問題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
高齢者の閉じこもりの増加によりフレイルリスクが高くなる	啓発支援	・一般介護予防 ・根拠に基づいた対策に関する情報提供	・「いーばしょ」の開設支援 ・理学療法士や運動指導士の派遣 ・はつらつ健康ポイント手帳 ・健康ジム無料券の配布	・「いーばしょ」、サロン、老人クラブ等での活動 ・「今、生きてます体操」、「楽ひざ体操」の実践 ・はつらつ健康ポイント手帳を活用した自主的な活動
	規則・罰則	・健康増進法 ・介護保険法		
	環境整備	・介護保険法 ・道路運送法	・高齢者福祉計画、第9期介護保険事業計画 ・AI乗合タクシー、予約型乗合タクシー	

プログラム④

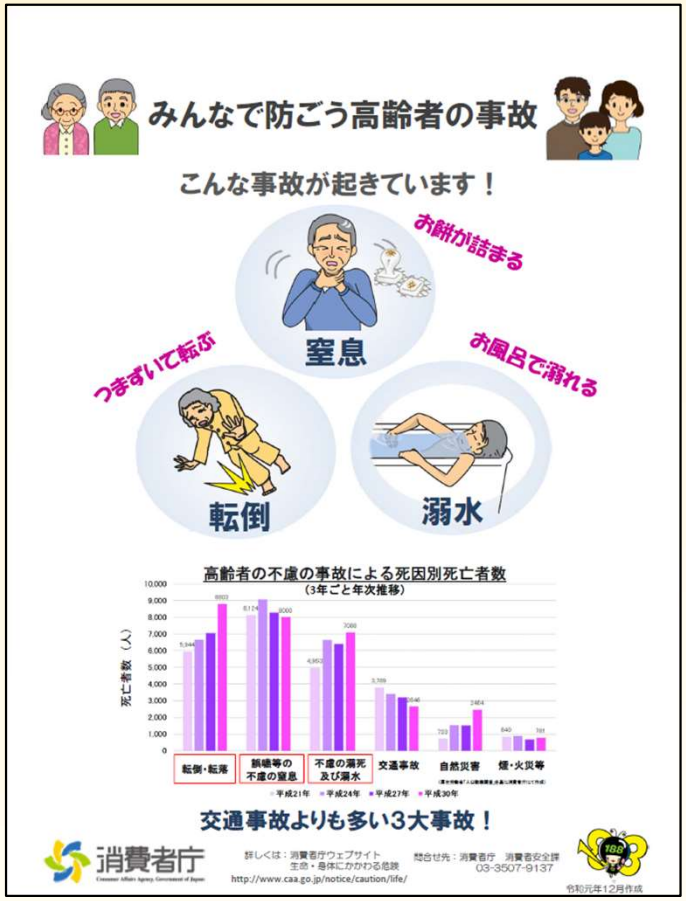
・地域での集まりの場の周知とサポート

環境面への取り組み

【国レベル】　法整備（厚労省）と環境づくり（消費者庁）のための情報提供

『みんなで防ごう高齢者の事故』
10月10日は「転倒予防の日」、高齢者の転倒事故に注意しましょう!
～転倒事故の約半数が住み慣れた自宅で発生しています～

図8　リーフレット等による情報提供（周知）

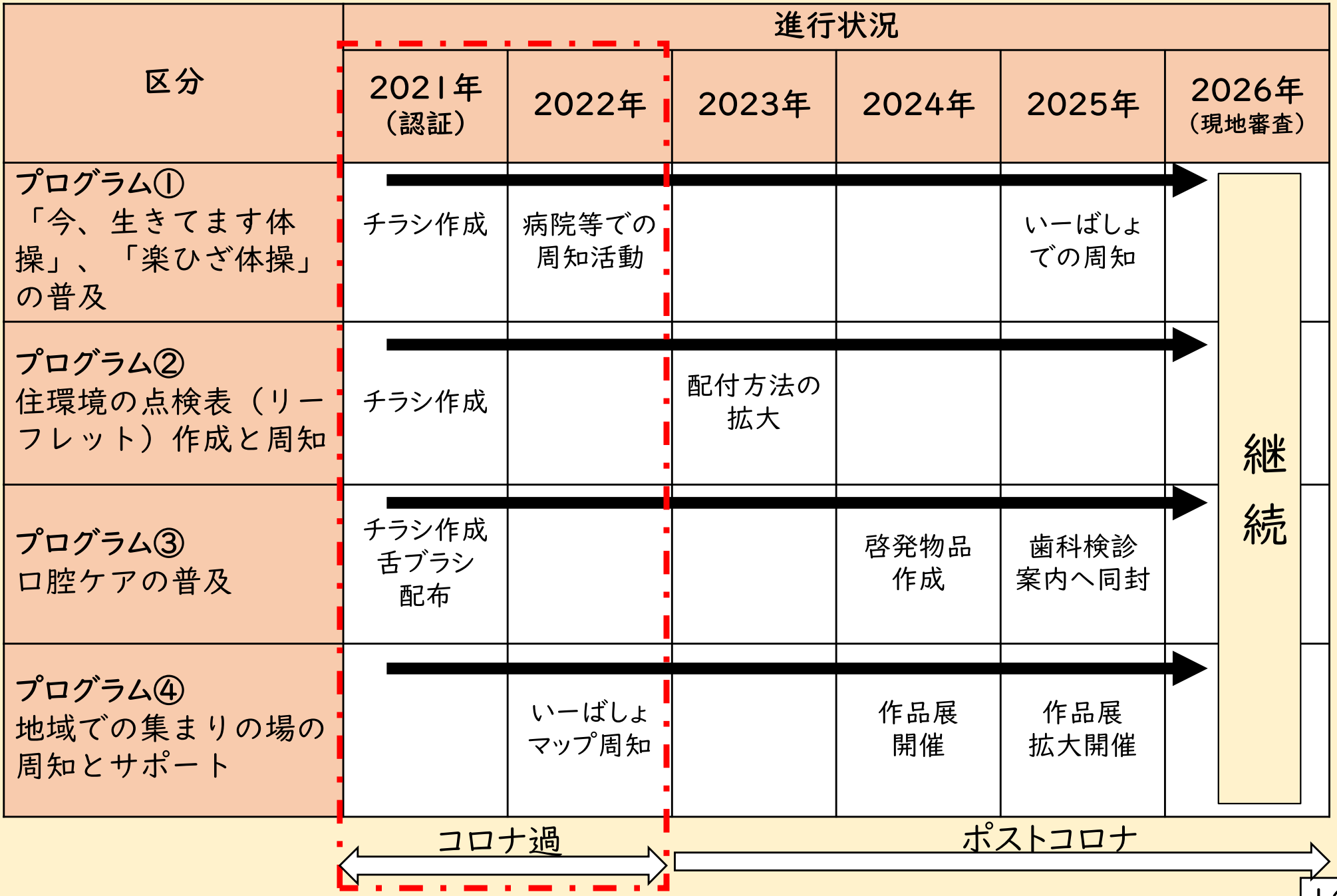






出典：消費者庁リーフレット

プログラムの運営状況


区分
進行状況
2021年（認証）
2022年
2023年
2024年
2025年
2026年（現地審査）
プログラム①「今、生きてます体操」、「楽ひざ体操」の普及
チラシ作成
病院等での周知活動
いーばしょでの周知
プログラム②住環境の点検表（リーフレット）作成と周知
チラシ作成
配付方法の拡大
プログラム③口腔ケアの普及
チラシ作成 舌ブラシ配布
啓発物品作成
歯科検診案内へ同封
プログラム④地域での集まりの場の周知とサポート
いーばしょマップ周知
作品展開催
作品展拡大開催
継続
コロナ過
ポストコロナ

プログラム①
「今、生きてます体操」、「楽ひざ体操」の普及

問題	転倒や転落が多い	
目標	転倒や転落を減らすために、健康な身体づくり。	
内容等	ローカルTVで毎日（午前１０時、正午、午後３時）放映 「今生きてます体操」「楽ひざ体操」「転倒予防」のチラシを訪問時やアンケート調査時に配布	
	【対象】	地域住民・通いの場の参加者
	【人材】	対策委員会、市、自治会、はつらつ鶴寿大学　他
区分	指標　【方向性】	測定方法
（短期） 認識や知識の変化	何らかの体操をしている人の割合	委員会アンケート調査
（中期） 態度や行動の変化	健康な身体づくり対策をしている人の割合	委員会アンケート調査
（長期） 状態や状況の変化	転倒・転落が原因の搬送件数/高齢者人口	救急搬送データ

プログラム①活動内容

■活動名「今、生きてます体操」、「楽ひざ体操」の普及

「いーばしょ」など通いの場や、各種イベントにおいてチラシや啓発物品等を配布し周知活動を行っている。

通いの場での体操を周知



楽ひざ体操



今生きてます体操

チラシと啓発物品





うちわ

カイロ

プログラム①の評価

年		2021（認証）	2022	2023	2024	2025
アウトプット（活動指標）	活動の実施回数 啓発物品等の配布数	・チラシ配布824枚	・チラシ配布765枚 New 〇市立病院内デジタルサイネージで常時情報発信	〇アンケート調査 ・啓発物品 200個 ・チラシ配布670枚 〇市立病院内デジタルサイネージで常時情報発信	〇アンケート調査1回 ・チラシ173枚 〇各種イベント等 ・チラシ863枚 ・うちわ400個 〇市立病院内デジタルサイネージで常時情報発信	〇アンケート調査2回 ・チラシ163枚 〇各種イベント等 ・チラシ600枚 ・うちわ600個 〇市立病院内デジタルサイネージで常時情報発信
アウトカム（成果指標）	意識・知識（短期） （何らかの体操をしている人の割合） ①委員会アンケート調査	―	―	―	―	①「何らかの体操」をしている人の割合76.1% (124人/163人)
	態度・行動（中期） （健康な身体づくり対策をしている人の割合）①委員会アンケート調査 ②統括アンケート	―	①「今生きてます体操」や「楽ひざ体操」をしている45.7% （90人/197人）	①「今生きてます体操」や「楽ひざ体操」をしている37.7% （73人/194人）	①「今生きてます体操」や「楽ひざ体操」をしている37.5% （57人/173人）	①「今生きてます体操」や「楽ひざ体操」をしている27.0% （44人/163人） ②している12.3%
	状況（長期） （転倒・転落が原因の搬送件数/高齢者人口）救急搬送データ	転倒94件 1.04% 転落25件 0.28% 高齢者人口 8,985人	転倒101件 1.12% 転落17件 0.19% 高齢者人口 9,003人	転倒138件 1.53% 転落20件 0.22% 高齢者人口 9,019人	転倒111件 1.23% 転落21件 0.23% 高齢者人口 9,019人	転倒110件 1.21% 転落13件 0.14% 高齢者人口 9,019人

プログラム②
住環境の点検表（リーフレット）作成と周知

問題	転倒や転落が多い	
目標	安全な住環境の整備を啓発する。	
内容等	・住環境の点検表（リーフレット）の周知 ・リーフレットを介護保険証と一緒に郵送する普及活動 ・各種イベントでの周知活動	
	【対象】	高齢者とその家族
	【人材】	対策委員会、市
区分	指標　【方向性】	測定方法
（短期） 認識や知識の変化	高齢者一般負傷の救急搬送で転倒が一番多いと知っている人の割合	委員会アンケート調査
（中期） 態度や行動の変化	家庭内における住環境の整備対策をしている人の割合	市高齢者の生活調査（１年置き）
（長期） 状態や状況の変化	転倒・転落が原因の搬送件数/高齢者人口	救急搬送データ

プログラム②活動内容

■活動名　住環境の点検表（リーフレット）作成と周知

　住環境の見直しにより、転倒・転落を防げるよう、各種イベントにおいて、チラシ等を配布しながら啓発活動を行っている。

『SCつるまつり』での掲示板と
ロコモ度チェックの様子



転倒予防のチラシ





プログラム②の評価

年		2021（認証）	2022	2023	2024	2025
アウトプット（活動指標）	活動の実施回数 啓発物品等の配布数	・チラシ配布120枚	・チラシ配布 1125枚	○65歳到達時に転倒予防リーフレットを同封して普及活動実施 12回 400名 ・チラシ 948枚 ＋約90枚	○アンケート調査2回 ○65歳到達時に転倒予防チラシを同封して普及活動実施 ・チラシ300枚 ○各種イベント等 ・チラシ573枚	○アンケート調査2回 ○65歳到達時に転倒予防チラシを同封して普及活動実施 ・チラシ300枚 ○各種イベント等 ・チラシ300枚
アウトカム（成果指標）	意識・知識（短期） （高齢者一般負傷の救急搬送で転倒が一番多いと知っている人の割合） ①委員会アンケート調査	—	①高齢者一般負傷の救急搬送で転倒が一番多いと知っている。 77.2% (152/197人)	①高齢者一般負傷の救急搬送で転倒が一番多いと知っている。 74.7% (145/194人)	①高齢者一般負傷の救急搬送で転倒が一番多いと知っている。 83.2% (144/173人)	①高齢者一般負傷の救急搬送で転倒が一番多いと知っている。 90.2% (147/163人)
	態度・行動（中期） （家庭内における住環境の整備対策をしている人の割合）②市高齢者の生活調査（1年置き）	—	②転倒しないために対策している 39.0% (1986/5091人)	—	②転倒しないために対策している 43.5% (1,853/4,258人)	—
	状況（長期） （転倒・転落が原因の搬送件数/高齢者人口） ・救急搬送データ	転倒94件 1.04% 転落25件 0.28% 高齢者人口 8,985人	転倒101件 1.12% 転落17件 0.19% 高齢者人口 9,003人	転倒138件 1.53% 転落20件 0.22% 高齢者人口 9,019人	転倒111件 1.23% 転落21件 0.23% 高齢者人口 9,019人	転倒110件 1.21% 転落13件 0.14% 高齢者人口 9,019人

プログラム③
口腔ケアの普及

問題	誤嚥や誤飲が多い	
目標	高齢者の誤嚥や誤飲の減少	
内容等	・口腔ケアの必要性や方法などを記載したチラシの配布 ・アンケートの実施	
	【対象】	高齢者全般
	【人材】	対策委員会、市
区分	指標　【方向性】	測定方法
（短期） 認識や知識の変化	誤嚥予防のために口腔ケアが大切な事を知っているか	委員会アンケート調査
（中期） 態度や行動の変化	オーラルフレイルケアを実施している人の割合	委員会アンケート調査 市高齢者の生活調査（１年置き）
（長期） 状態や状況の変化	誤嚥・誤飲が原因の搬送件数/高齢者人口	救急搬送データ

プログラム③活動内容

■活動名　口腔ケアの普及

　誤嚥や誤飲を減らすために、口腔ケアなどのチラシや歯ブラシ・舌ブラシを配布しながら啓発活動を行っている。

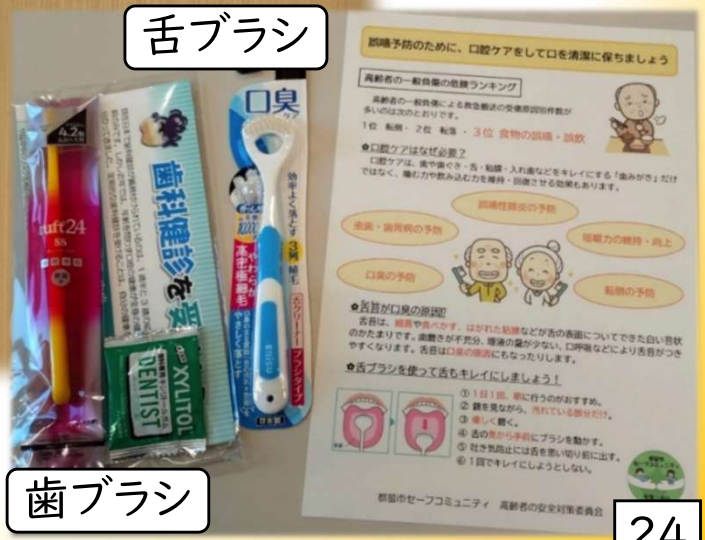
食生活改善推進員への周知活動



市立病院のデジタルサイネージ



口腔ケアのチラシと啓発物品



プログラム③の評価

年		2021（認証）	2022	2023	2024	2025
アウトプット（活動指標）	活動の実施回数 啓発物品等の配布数	○７５歳健診対象者へ配布 ・チラシ50枚 ・舌ブラシ50個	○７５歳健診、周知活動にて配布 ・チラシ910枚 ・舌ブラシ455個	○アンケート調査 ・啓発物品 200個 ○75歳健診時チラシ周知 ・チラシ906枚 ・団扇194個	○アンケート調査2回 ・歯ブラシ173個 ・チラシ173枚 ○75歳健診時チラシ周知 ・チラシ150枚 ○各種イベント等 ・チラシ400枚 ・舌ブラシ40個	○アンケート調査2回 ・歯ブラシ163個 ・チラシ163枚 ○75歳健診時チラシ周知 ・チラシ150枚 ○各種イベント等 ・チラシ760枚 ・舌ブラシ40個
アウトカム（成果指標）	意識・知識（短期） （誤嚥予防のために口腔ケアが大切な事を知っているか）①統括アンケート	—	①誤えん・誤飲予防のための口腔ケアが重要　41.2% (256人/620人)	—	—	①誤えん・誤飲予防のための口腔ケアが重要　39.9% (341人/853人) ※成人への調査
	態度・行動（中期） （オーラルフレイルケアを実施している人の割合）②委員会アンケート調査、③市高齢者の生活状況調査（１年置き）④統括アンケート	—	②一日に3回歯磨きしている 40.1% (79人/197人) ③定期的に歯科に行っている 46.9% (2413人/5139人)	②一日に3回歯磨きしている 39.2% (76人/194人)	②一日に3回歯磨きしている 38.2% (66人/173人) ③定期的に歯科に行っている 51.4% (2225人/4330人)	②一日に3回歯磨きしている 33.1% (54人/163人) ④定期的に歯科に行っている 45.2% (379人/838人)
	状況（長期） （誤嚥・誤飲が原因の搬送件数/高齢者人口） ・救急搬送データ	２件/8,985人 0.02％	10件/9,003人 0.11%	1件/9,019人 0.01%	4件/9019人 0.04%	2件/9019人 0.02%

プログラム④
地域での集まりの場の周知とサポート

問題	閉じこもり(心、身体、環境)	
目標	健康な心と身体を作り、安全な環境を整備することで閉じこもりを減らし、社会参加の機会を増やす。⇒通いの場の充実	
内容等	・通いの場のマップ作成と配布による普及活動 ・他の対策委員会に「いーばしょ」などの情報提供	
	【対象】	高齢者全般
	【人材】	対策委員会、市、他
区分	指標　【方向性】	測定方法
（短期） 認識や知識の変化	「いーばしょ」を知っている人の割合	市高齢者の生活調査（１年置き）
（中期） 態度や行動の変化	通いの場に参加した・ここ１か月間に人が集まる場に参加した人の割合	委員会アンケート調査
（長期） 状態や状況の変化	集まりの場の開設数、参加者数	開設数・延べ参加人数

プログラム④活動内容

■活動名　地域での集まりの場の周知とサポート

閉じこもりを防ぎ、社会参加を増やすため、地域での集まりの場の周知及び活動を支援している。

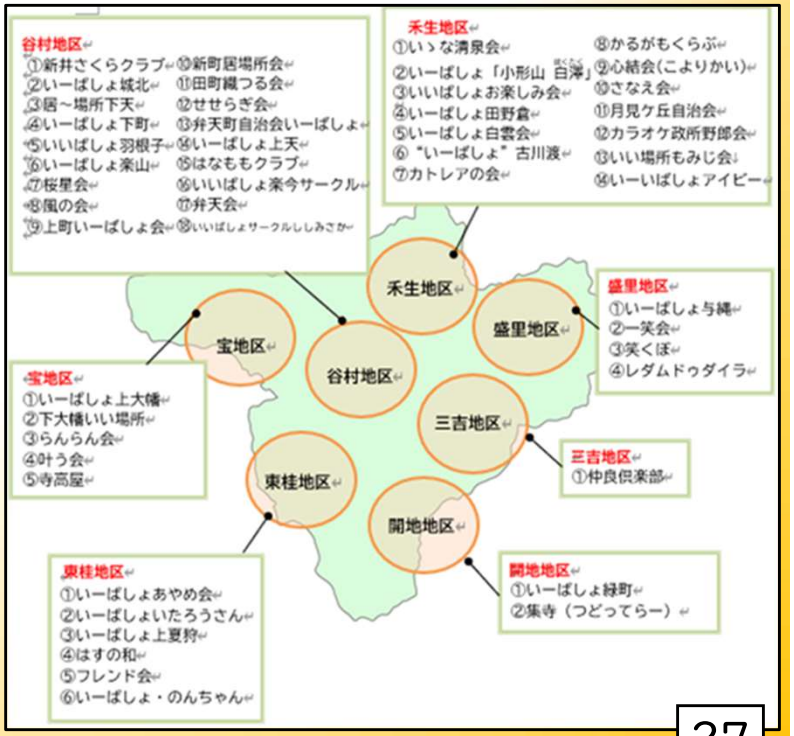
いきいきフェスティバル
「いーばしょ」作品展の様子



男性限定のアンケート調査



「いーばしょ」マップ



プログラム④の評価

年		2021（認証）	2022	2023	2024	2025
アウトプット（活動指標）	活動の実施回数 啓発物品等の配布数	○市ＨＰや窓口にて「いーばしょ」マップの周知	○市ＨＰや窓口にて「いーばしょ」マップの周知	○アンケート調査2回 ・啓発物品2種類300個 ・チラシ320枚 ・団扇　194個 ・カイロ　71個	○アンケート調査3回 ・チラシ173枚 ○各種イベント等 ・チラシ200枚	○アンケート調査2回 ・チラシ163枚 ○各種イベント等 ・チラシ100枚
アウトカム（成果指標）	意識・知識（短期） (「いーばしょ」を知っている人の割合) ①市高齢者の生活調査 ③いきいきフェスティバル　④統括アンケート	－	①38.5% (1935人/5022人)	New ②男性対象アンケート実施「いーばしょ」を知っている方28.1%（20人/71人）	①54.4% (2291人/4212人)　New ③いきいきﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙｱﾝｹｰﾄ調査 「いーばしょ」を知っている方28.2%（20/71人）	④知っている49.1%
	態度・行動（中期） （通いの場に参加した・ここ１か月間に人が集まる場に参加した人の割合） ⑤委員会アンケート調査	－	⑤ここ１か月間に人が集まる場に参加した　69.0%（136人/197人）	⑤ここ１か月間に人が集まる場に参加した　73.7%（143/194人）	⑤ここ１か月間に人が集まる場に参加した　79.8%（138/173人）	⑤ここ１か月間に人が集まる場に参加した　86.5%（141/163人）
	状況（長期） （集まりの場の開設数、参加者数） 「いーばしょ」開設数・延べ参加人数	「いーばしょ」 開設数29か所 延べ参加者 4,062人	「いーばしょ」 開設数33か所 延べ参加者 5,669人	「いーばしょ」 開設数39か所 延べ参加者 7,507人	「いーばしょ」 開設数44か所 延べ参加者 9,237人	「いーばしょ」 開設数５１か所 延べ参加者 ※集計中　人

取り組みの成果

項目	2013~2018年 合計	2019~2023年 合計	成果	参照
問題1：高齢者の救急搬送のうち転倒や転落が多い （救急搬送の件数）	2013~2017年 70%	2019~2023年 84%	活動は活発に行い、環境を改善する人は多くいたが、転倒・転落の割合は減っていない。（+14%）	P6 図4・図5
問題2：高齢者の救急搬送のうち誤嚥・誤飲が多い （救急搬送の件数）	2013~2017年 3%	2019~2023年 3%	調査結果によりオーラルケアをしている人の割合は下がっているが、歯科検診を受けている人の割合は増加している。救急搬送の割合は変化がない。（±0%）	P6 図4・図5
問題3：高齢者の閉じこもりの増加によりフレイルリスクが高くなる （閉じこもりの割合）	2018年 10.9%	2024年 8.1%	「いーばしょ」などの高齢者の通いの場の増加により、参加者も増え、閉じこもりに該当する人の割合が減少している。（−2.8%）	P7　図6
問題3：高齢者の閉じこもりの増加によりフレイルリスクが高くなる (フレイルリスクの割合)	2018年 28.1%	2024年 24.5%	閉じこもりに該当する方の割合の減少に伴い、フレイルリスクに該当する人の割合も減少している。（−3.6%）	P8　図7

現在の課題と方向性

◆ 市の体操の実施に繋がっていない。

プログラム①の成果指標ー態度・行動（中期）の「今生きてます体操」や「楽ひざ体操」を実際に行っている人の割合が増えていないが、「その他の体操」を行っている人は相当数いるため、市の体操を実施及び継続した場合に、どのような効果があるかを周知する。

◆転倒・転落の件数が減少に転じていない。

プログラム②の成果指標ー（短期）の搬送件数のうち、転倒・転落が多いことを知っている人の割合や、（中期）の転倒しないために対策している人の割合は増加しているが、（長期）の転倒・転落が原因の搬送件数/高齢者人口の割合が減少していないため、原因を分析し対応する。

データの収集・分析、リスクアセスメント

2025年度外傷サーベイランス委員会「安全診断」の結果とそれに対する対応

安全診断の結果（外傷サーベイランス委員会評価）	対策委員会での対応
【データ収集】 ・高齢者の受傷原因は「転倒・転落」が多数を占めているが、受傷の程度（打撲なのか骨折なのか）まで聞きとると良いのではないか。 ・受傷場所については、「自室・寝室」が多いが、寝室のどこで受傷したかなど詳細に聞き取り、具体的に危険な場所を伝えることが怪我を防ぐには大切になるのではないか。	救急搬送統計では「受傷原因」と「受傷程度」が分離して集計されており、転倒・転落が高齢者の主要な受傷原因であることは把握できるが、その結果として「打撲なのか骨折なのか」という詳細な情報が統計に反映されていない状況であり、また受傷場所についても「自室・寝室」という大括り分類のため、具体的な位置関係は把握できておりません。 当事者等への聞き取りは難しいため、一般的な情報として参考となるものがあれば、対策を検討していきたいと考えている。

2025年事前指導の評価と対策委員会の対応

2025年事前指導の評価	対策委員会での対応
誤飲・誤嚥を予防するためのオーラルケアも大切だが、噛む回数を増やすことやお水を飲みながら食事をするなどの予防方法も一緒に周知していただきたい。	誤飲・誤嚥予防には、オーラルケアだけでなく、噛む回数を増やす、水分を意識的に摂取する、食べ物の選択など、多角的なアプローチが重要となるため、市の健康手帳に掲載されている口腔体操と併せて、こうした食事方法や栄養面でのポイントについても、市の栄養士や保健師と連携しながら、統合的な情報として周知していくことを検討いたします。
高齢者虐待に関してふれていなかったが、これに関して取り組んでいることはあるか。	本委員会は、これまで健康寿命の延伸を目的に、介護予防を通じた高齢者の機能維持に重点を置いて活動してまいりました。一方、高齢者虐待も深刻な課題であり、虐待予防も含めた包括的な高齢者支援の観点から、本委員会の活動内容と虐待防止の連携可能性について、今後協議を進めたいと考えてまいります。

今後の取り組み

2021年（認証）	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年（再認証）

プログラム①「今、生きてます体操」、「楽ひざ体操」の普及

- 【継続】啓発チラシの作成配布・CATV等での動画の放映
- 【検討】動画の変更

プログラム②住環境の点検表（リーフレット）作成と周知

- 【継続】啓発チラシの作成配布
- 【拡大】啓発チラシの修正

プログラム③口腔ケアの普及

- 【継続】啓発チラシ・啓発物品の配布
- 【拡大】啓発物品の変更
- 【新規】歯科検診案内通知へ同封

プログラム④地域での集まりの場の周知とサポート

- 【継続】いーばしょマップの配布
- 【新規】作品展の開催、【拡大】対象の拡大



ご清聴
ありがとうございました。

都留市セーフコミュニティ
高齢者の安全対策委員会
一同